



ひばりは 歌った 生涯を 歌い続けた  
 四千という いのちの曲が 世界に流れた  
 ただ 歌うことが ひばりの いのちであった  
 ほとんどの 人という人は すべて  
 その歌とともに 生きてきた  
 ひばり は逝った  
 歌はしかし まだ生きている  
 歌いながら 泣きながら いのちとともに  
 幼い日から ひばりは 歌であった  
 手と足と ステッキと シルクハットと  
 大きな靴で  
 チャップリンは まだ生きているように  
 人種も 国の相異も 男女の別もない  
 歌も 芸も 同じいのちの 躍動である  
 歌も 芸も まだまだ生きている



同じいのちを 生きながら  
 こんな生涯を終る人もいる  
 ただ 羨望のかぎりである  
 歌も 芸もない 人は  
 どんな生きざまをすべきだろうか  
 せめてわが人生を  
 力の限り 生きるほかはあるまい  
 あれもこれもと  
 希望や欲望を 満たすことだけではない  
 いま生きている 自らの生命を  
 いかにして充実するかである  
 仏教では これを 精進誠信という

新編  
 譚巴拉ド  
 歌



秋彼岸号

③ 精進誠信(力の限り)

しょうじんじょうしん

「雲 晴」第五十二号

令和六年九月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五  
 電話 (03) 3627-3411  
 FAX (03) 5699-5915





# 唱歌のふるさと 童謡のくに ①9

著：佐山哲郎

## 男の子と女の子

佐藤義美さとうよしみという作詞家がいる。

グットバイ

グットバイ

グットバイバイ

父さんお出かけ手を上げて

電車に乗ったら

グットバイバイ

という他愛もない歌詞に妙な愛着がある。五番まであり、原っぱであそんだ友達も：お昼になったら町からいらした叔母さ

んもご用がすんだら：三匹生 この作詞家の代表作といえ

またた犬の子もよそえあげたら 犬のおまわりさんであろう。

みんなグットバイバイなのであった。

迷子の迷子の子猫ちゃん

まりニヤンニヤンニヤニヤン

ワンワンワンと賑やかに終

わる犬のおまわりさんの歌詞を

聞いて、猫はどうも女の子のよ

うに思える。それに対して犬の

警官は男のようである。泣いて

ばかりいる女の子と、それを前

にして困っている男の子の取り

合わせを想像してしまふ。



# 華

花ひらひて 好胤



## ⑧お母さんの古洋琴

高田 都耶子

奈良で母が借りていた一軒家の片付けに挑んで、やっと今年の六月に五年に及ぶ戦いが終わりました。明けない夜は無

いという心境です。

荷物の多さに愕然とし、怒りすら感じながら諦めようと思いました。「諦めるとは、仏教では明らかに見る」だったと思

い出したのです。最後の最終、ピアノの処遇に行き詰まりました。それは「おじいさんの古時計」ならぬ母が母の祖父から贈られた「母の

古洋琴ピアノ」でした。何十年間も弾いてもい

ない調律もしていない九十年近く前のア

ウグスト・フェルスターというドイツ製

のアップライトピアノです。奈良の引取

り業者や楽器店は引取り料を支払ってく

れたら処分するという答え。「縷の望み

で東京のある大手楽器店にも相談したけ

れど「古過ぎて買取は無理ね」とすげな

い返事。だから相談しての恨めしく思

づいてきました。

音楽大学でピアノ科卒業の友人ならと

連絡してみたところ、「うちのグラランド

ピアノも息子から「お母さんが死ぬまで

に処分してよ」と言われているのよ。そ

もそんな古いピアノ、直すとしても結

構な金額になるでしょ。それなら新し

のが買えるわよ。直して卒業した学園に

寄付したいと言っけど、黄ばんだ象牙の

鍵盤は小学生は気持ち悪がるだけよ。真

新しいピアノと古いピアノ…どっちを子

# 一口法話



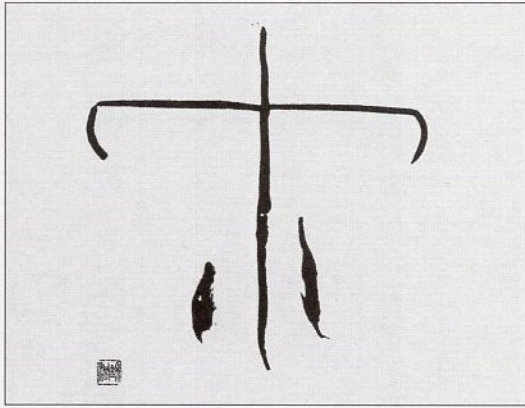
「姿勢を正して」

先日、人気予備校講師の林修先生が小中学生の子供を持つ親御さん達へ講演しているテレビ番組を見ました。その番組のなかでこのように言われていました。

「親が子供に対して注意することは実は一つだけでいいんです。それは姿勢を正しくしなさい」ということ。姿勢の良い不良少年って想像できないでしょ。たいてい道を踏み外してしまった少年たちの姿勢は悪くて前のめりになっています。背筋をキチンと伸ばし姿勢を正しくするということは人を正しい思考、正しい生き方に導く大切なことなんです。」  
何気なく見ていた番組でしたが、印象に残った言葉でした。そして私たちが生活していく中で、文字通り身体の姿勢を正しくすることも重要ですが、同時に心の精神的な姿勢を正しくしていくことも大切なことであらうと感じました。



# 誘いの書



供が喜ぶと思う?」というのが返事でした。そうでしょうか、お金で測れることじゃないと思うのですが…。古いピアノを大切にすることをさせることこそ教育になると思えてなりませんでした。

八方塞がりの時、伊豆のお寺さんから打ち合わせの電話がありました。彼は「あちよつと待ってて。大阪に良いピアノ二ストさんが居るから、彼女にすぐに連絡する」と言ってくれました。そして十分後にはもう私は彼女と電話で話してしまいました。ピアノ二ストの麻梨先生は「写真を見ました。実は月曜日の午後の予定が空きましたから、そのピアノに会いに行きます。知ってる調律師さんにも相談して良い方法を考えましょう」と言ってくれました。月曜日に来てくれるやピアノの写



そのピアノの前で  
新婚時代の両親です…  
日々であります。

真を撮って信頼できる調律師先生に送ってくれました。改めて再び麻梨先生は調律師さんを伴ってピアノを見に来てくれました。調律師さん曰く「これは処分するには勿体ない、二度と手に入らない逸品です。無垢の木で作られていて、象牙の鍵盤もまだ活かせます。私に任せてもらえませんか」ということでピアノは奈良から枚方の工房、外装補修で尼崎の工場に運ばれて、手入れしてもらっています。先日、卒業した学園の校長先生に話しました。「いいお話ですね。学園で相談してみましょう」と言っていたとき、うちのアウグスト君は活躍の場を得られるかも知れないと心が踊る

## 「ロノ神」

貞林院瑞正寺 住職 林 清方  
故林 錦洞書

これは以前にも紹介いたしましたハワイ原住民の石刻画でハワイアンペトログリフを題材にした作品です。当時まだ文字を持たない原住民は民族の歴史と神話を後世に伝える手段として岩肌を刻んでこれを残してきました。その図象は中国古代文字である甲骨文字にも通じるものがあり、先代錦洞は書家と

して大変興味を持ち、何度も現地に足を運びその研究を行い、これを契機にペトログリフを題材とした書の作品を数多く制作してきました。また当時の代表的な現代書家とともに現地を訪れこれを日本に広く紹介し、またハワイ現地での書展なども開催されています。このような活動が評価され平成元年にはハワイ州知事より文化顕彰を授賞されました。

「ロノ神」の「ロノ」とはハワイ語で平和と農業、豊かな土地と気候や天気を司る神の名称です。そのお姿は長い木でTの字を作り、そこに鳥の羽のレイやシダが垂らされています。

この作品はその姿をモチーフとしたものであり、シンプルな線が絶妙に引かれ、その細い線が力強く堂々と周りの空間を埋めています。当時の人々が畏敬の念を持って祈りを捧げていたそのお姿をも感じさせるような作品となっています。

仏教の教えの第一歩は無常ということ。無常を忘れずに生きること。無常を忘れず生きるということは、私たちは必ずこの世を終えていかなければならない存在であるということ。忘れずに生きることです。しかし私たちはこの現代の溢れんばかりの情報の中で、ついついこの大切なことを忘れ、目の前のことばかりに心を奪われ、一喜一憂しながら生活しているのではないのでしょうか。この姿はまさに仏教的にみると心の姿勢を悪くしている生き方であるといえます。お互いの心の姿勢をしっかりと正して、無常を受け止め、お念仏を申して日々生活していきたいものです。

(総本山知恩院布教師会ホームページより)



## 秋の彼岸法要ご案内

本年の秋の彼岸法要につきましては左記のとおり行います。

檀信徒におかれましては、これまでのように本堂内へお上がりいただきご参列ください。塔婆をご希望の方は、お早めに電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

### 記

九月二十二日（日）正午

塔婆料 三千元

回向料（お布施） 志納

塔婆料と一緒にお納めください

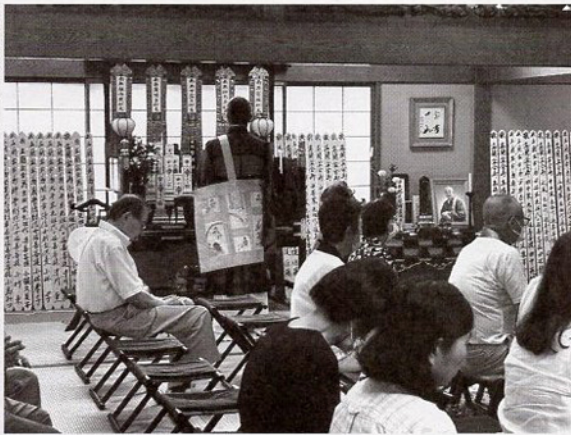
「寺からのお願い（手桶について）」

水屋にあります手桶につきましてはご自分の家の手桶が古くなり廃棄した後は、新しいものを購入する必要はありませんので、寺名が入ったものをお使いください。

年々増えて水屋に入り切らなくなってきましたので、どうぞご協力をお願いいたします。

## 「七月お盆法要のご報告」

本年の七月お盆法要は十四日の日曜日に実施いたしました。本年は梅雨明け前から連日大変な暑さが続いており、当日も朝から三十度を超すような暑さとなりました。そのような中でも沢山の檀信徒の皆さまにお参りいただき有り難うございました。毎年の法要ですが年々暑さが厳しくなっていくような気がいたします。どうぞお墓にお参りの際は客殿に一度お上がり頂き、水分を十分に取ってからお参りください。



「塔婆に水向けをしてからご回向いたします」

## 書道教室のご案内

お寺では書道教室を行っております。平成二十七年十一月に始まり早いもので九年目を迎えました。講師は外山錦紅先生です。外山先生は青森県八戸の同じ浄土宗のお寺で生まれ育ち、先代林錦洞に長く師事され、現在は産経国際書会の審査会員として活躍されております。初心者の方も大歓迎ですのでどうぞご参加をお待ちしております。

毎月第二火曜日（原則）

時間 午後三時～午後五時

月謝 三千元

\*筆・硯・墨汁・下敷き等は各自でご用意ください。

体験だけでも結構ですのでご希望の方はお寺までお問い合わせください。

\*護持会費未納の方へ\*

今年の護持会費につきまして未納の方は、お振り込みか直接お寺までお持ちくださるようお願い申し上げます。

（貞林院瑞正寺）